

微小粒子状物質 (PM2.5)

(1) 一般局

表1に示すとおり一般局の北部、西南部、小立野、西部の4測定局全てで長期基準による環境基準を達成した。

年平均値は、図1に示すとおり過去9年間において減少傾向であり、全国平均と比較すると低い結果となった。

1日の平均値の年間98%値は、図2に示すとおり前年度と同程度であった。

表1 一般局における微小粒子状物質の年間測定結果

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1日平均値の年間98%値	1日平均値の最高値	1日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数
	(日)	(時間)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	(日)
北部	354	8561	7.4	17.4	22.3	0
西南部	356	8611	6.5	15.0	20.0	0
小立野	350	8507	5.7	14.0	18.9	0
西部	354	8560	6.9	17.1	23.8	0
中央	—	—	—	—	—	—
本市平均			6.6	15.9		
全国平均(R03)			8.3			
環境基準			15以下 (長期基準)	35以下 (短期基準)		

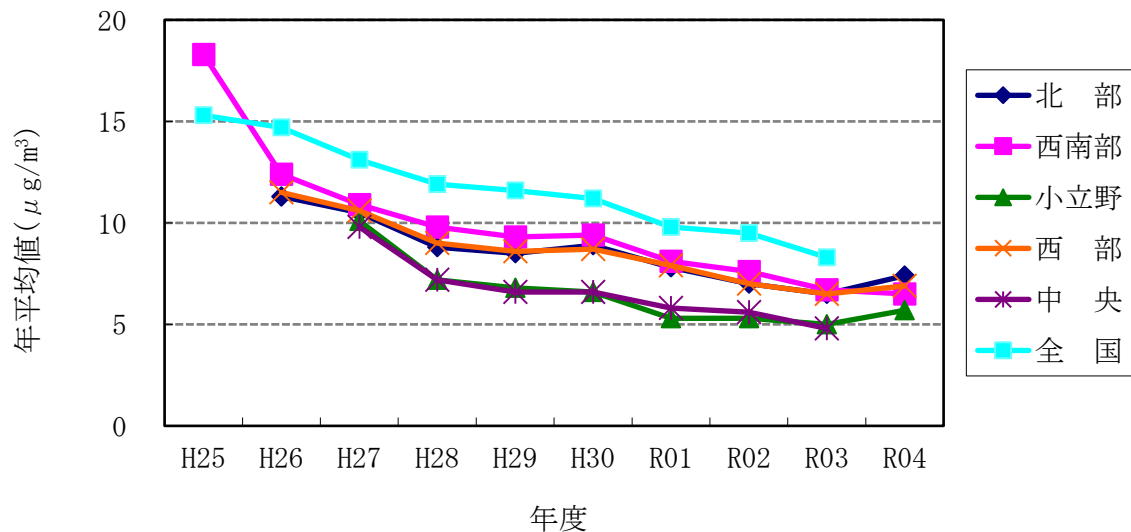


図1 一般局微小粒子状物質の年平均値の経年変化 (長期評価—長期基準)

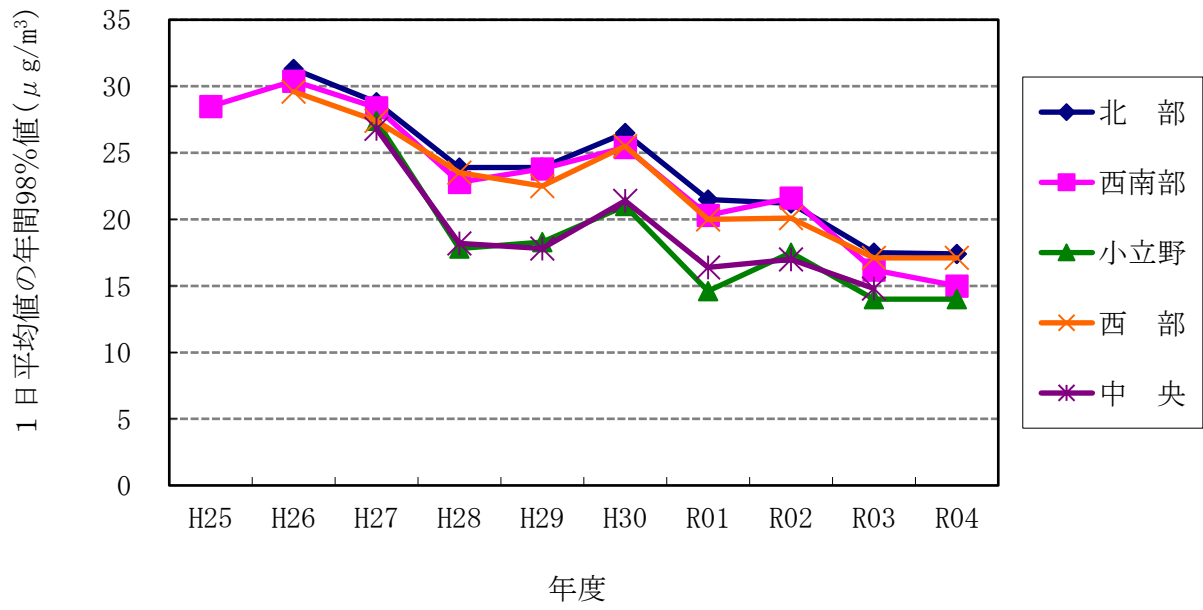


図2 一般局微小粒子状物質の
1日平均値の年間98%値の経年変化（長期評価－短期基準）

(2) 自排局

表2に示すとおり自排局の山科局で長期基準、短期基準による環境基準を達成した。

年平均値は、図3に示すとおり過去8年間に於いてほぼ横ばいではあるが令和4年度が最も低く、全国平均と比較しても低い結果となった。

表2 自排局における微小粒子状物質の年間測定結果

測定局	有効測定日数 (日)	測定時間 (時間)	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	1日平均値の年間98%値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	1日平均値の最高値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	1日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数 (日)
山科	355	8607	5.8	14.3	20.3	0
全国平均 (R03)			8.8			
環境基準			15以下 (長期基準)	35以下 (短期基準)		

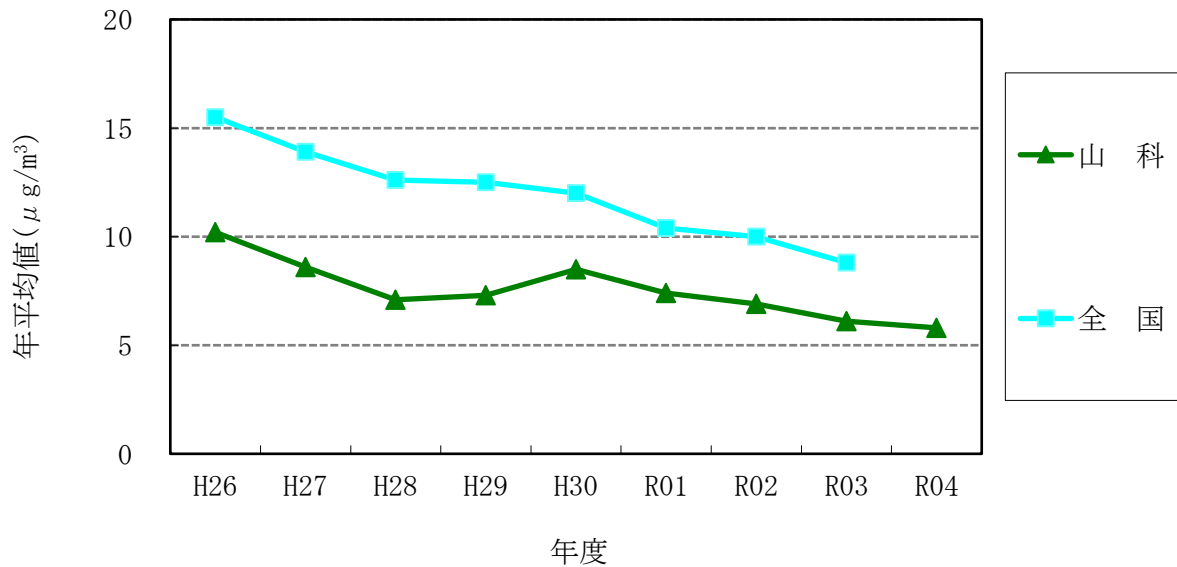


図3 自排局における微小粒子状物質の年平均値の経年変化（長期評価－長期基準）